

北陸石仏の会々報

第 30 号
平成17年5月10日発行

編集発行 (年会費 三〇〇〇円)
北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)
代表 北村市朗
〒939-1315 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
電話 〇七六三一三二一―二七七二
振替 〇〇七四〇―二―一九七四

となみ野の元気の根源

―石仏からの受信―

尾田武雄

■石仏からの発信を聞く!

砺波地方には、石仏が多い。それは今から約三十年前頃からの調査でわかってきた。またその造立の意図もおおむね理解できるようになった。石材は地元で採掘された庄川町の金屋石が多く、幕末から明治期に爆発的に造立され、現在野にある石仏の多くはこの時期のものである。またその多くが死者の供養であり、石仏を建てた人々は、若連中の名もない青年達であることがわかってきた。最近地藏祭りと言えば、細々となんとか行なわれているが、明治期は違ったのである。

地域の若者によって建てられた石仏は、地域で長く大事に維持管理され、若者や子供たちによって祭りもされてきた。死は公のものとしてされていた。「死」そのものは悲しいものであるが、それを自分自身の「生」への応援歌にして生きたのである。明治の若い衆つまり青年たちは、そんな意味で、石仏を建てることに、「死」から「生」を感じ取っていたのかもしれない。

■いきいきとした青年たち

砺波地方は獅子舞や盤持・草相撲・チョンガリなどの郷土芸能が盛んな地域である。これらは古い歴史を持つものもあるが、

多くは明治期に起こったものが多いのである。砺波地方は真宗王国と言われているが、若衆報恩講などもこの時期に盛り上がったものである。石仏に接し触れることによって、死を身近に感じ、信仰に根ざした真の元気が明治時代の砺波の若者たちにはあったのではないだろうか。そんな内から燃えてくるような活性化した元気が明治の砺波を支え、元気な獅子舞の活力となり今日の豊かな郷土を造ったのではないかと思っている。宗教とか信仰と言うといささか抹香臭いが、本来そんなはずではなかったのではないか。道端にたたずむ石仏にちよつと頭を下げるのも、すがすがしいものである。

■元気の素

石仏と長く付き合っているが、その魅力は普遍的な大問題「死」について、そう重く考えず気軽に意識できるのが石仏ではないかと思われる。本物の元気はやはり自分自身への問い掛けである。明治期の砺波の精神風土を知るのに石仏が最適で、それを認識し行動することが「砺波ルネッサンス」かもしれない。なにげなく、なんのてらいもなく石仏に花が手向けてある。散居村の展開する砺波野の田園風景であるが、それがまたこの地の風土そのものである。私はそんな石仏たちが好きであり、野にきらきら輝く石仏を発掘し紹介しながら、元気を私の中に入れてたい。そしてそこに住む自分の内なる元気を引き出し、いきいきとした生活を提案したい。こんなことが元気な町づくりができるきっかけになるかもしれないと、今もとなみ野の石仏と語っている。

(「とやまファン倶楽部」No.17より)

《石仏紹介》 17

【一字金輪仏頂尊】
いちじ きんりんぶつちようそん

柳 沢 栄 司

この金輪には、釈迦金輪と大日金輪の別があるという。この写真は、金剛界大日如来の大日金輪である。金剛の宝冠を戴き、智拳の大印を持して、獅子座（写真は七獅子）白蓮華台に座している。

第一書房・新纂仏像図鑑・上巻地之巻・如来篇（仏頂尊）

種々の石仏の本を調べたが、中々判らなかつた。ただ一冊庚申懇話会編『日本石仏事典』雄山閣発行、像容の部・大日如来に「大日如来」として掲載してあつた。

撮影・石川博司

単に「大日如来」だけでは説明不足で、「金剛界大日金輪仏頂尊」と呼ぶのが正しいと思う。
倉敷市・観龍寺



新潟県石仏の会

上越安塚地区 見学報告

平成17年4月29日

柳 沢 栄 司

役員の金子正彰氏よりのお誘いがあつて、参加させて戴いた。JRほくほく線虫川大杉駅前8時55分出發

安塚賞泉寺（白山権現と門前の地藏堂に福助形像を抱く地藏座像） 本郷神明社（極端に簡略化した戦国時代の地藏2体、上段墓地2体、個人蔵1体の板石地藏） 行野（賞

泉寺地藏堂の福助形像を抱く地藏のやや大形のもの。袂と見たのはチャンチャンコらしい。尊名を解明する必要あり）

聾啞の村長、横尾義智氏本邸跡（記念館） キューピツ

トバレースキー場（雪だるま温泉で昼食）（ここのバスを利用させて頂いた） 須川の菱神社（級長津彦神、級長戸

邊神の風神碑） 須川の（双体道祖神） 上船倉（小丸山

遥拝地碑） 樽田川（一石三体の熊野権現） 小黒（専敬

寺） 袖山（六手庚申塔、念三夜塔） 板尾（毘沙門天、

尼僧風道祖神）

現地の人でなければ判らないような場所が多く、事前に探査されたご苦勞に感謝する。埼玉県から石塚正英、栃尾市から星野紀子夫妻、柏崎市から阿部茂雄、上越市から吉村博の諸氏など三十名の参加。懇切な案内説明書は、写真も豊富で大変有難かつた。

第31回例会

神通川周辺の石仏

(富山市南部・大沢野町) 報告

今回は参加人数が少ないため各自家用車に分乗し、この地方をフィールドに精力的に石仏調査をされている平井氏の案内で石仏探訪を行なった。富山市開発龍高寺では八十八ヶ所観音を台座に刻んだ宝篋印塔・また真言宗の墓地に多い五輪塔を腹前に持つ弥勒菩薩像・中世石造物など魅力的な石仏にお会いした。その後大沢野町に入り、小黒の弥陀三尊仏・松野の聖徳太子二歳像、この太子像は砺波地方に多いもので庄川町出身の石黒氏の造立によるものである。茅葺のお堂の中に入る極彩色の弥陀三尊仏など拝見し、お昼は寺家公園内にとった。帝龍寺の寛明の名号塔・三十三ヶ所観音、直坂にある蚕神や級長戸辺神社の弁財天など珍しい石仏にお会いし有意義な一日であった。

第31回 北陸石仏の会例会参加者名簿

松井 兵英	齋藤 謙一	滝本 靖士	柳沢 一夫
佐伯 安一	尾田 武雄	岩城 義弘	藤田 正時
南 金三	平井 一雄	町 与一	西村多恵子
中川 達	柳沢 栄司		

14名



富山市開発の龍高寺で

お知らせ

- ・平成17年度会費を同封の振替用紙にて送金してください。
- ・会員佐伯安一氏と平井一雄氏が『大沢野町史』編纂に関わられ、「民俗編」に石仏・石塔を執筆された。そのほか民俗では民家・祭りと行事・獅子舞・民具など充実している。
- ・『北陸石仏の会研究紀要』8号の原稿を募集中です。
- ・石仏に関する写真・短歌・俳句・詩なども募集中です。

第32回例会のご案内

◎月 日 平成十七年六月五日(日)

◎時 間 集合 富山駅北口 午前七時三〇分

砺波駅南口 午前八時二〇分

金沢駅西口 午前九時二〇分

◎会 費 五〇〇〇円

◎申し込み 次のことを記入の上、はがきでご連絡ください。

住所・氏名・電話番号

よろしければ携帯電話も・集合場所

◎申し込み先 〒九三九一―一三一五

砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

北陸石仏の会事務局

◎締切日 平成十七年六月一日

◎昼食は各自ご持参ください。

*見学先

- ① 月心寺(曹洞宗) 金沢市山の上町
 - ・仙叟室(裏千家)の墓(五輪塔)
 - ・初代大樋長左衛門(大樋焼)の墓
- ② 真成寺(日蓮宗) 金沢市東山
 - ・鬼子母神堂
 - ・三猿(庚申)
 - ・初代中村歌衛門(歌舞伎)の墓
- ③ 心蓮社(浄土宗) 金沢市山の上町
 - ・徳本名号塔(文政九年間 浅野川講中)
- ④ 常盤滝トキワ 金沢市常盤町
 - ・不動明王
 - ・聖観音、延命地藏
 - ・行者洞跡
- ⑤ 大桑不動 金沢市涌波
 - ・不動明王
 - ・六地藏(一石)
- ⑥ 野田山前田家墓所 金沢市野田町
 - ・歴代加賀藩主の墓

※諸般のためコースに変更があるかもしれません。